

令和2年度 日之影町立高巣野小学校 学校評価

- 「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。
 4：期待以上、3：期待どおり、2：やや期待を下回る、1：改善が必要
 ○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：教育懇話会委員評価

評価期	達成目標と方策		第一次評価者所見	評価		
				第一次	第二次	第三次
学力向上	1	45分の授業の充実を図るとともに5分以上の習熟の時間を確保し、「分かる授業」「鍛える授業」を目指し、児童に確かな学力を身に付けさせ、各種学力検査で全学年、全領域で平均(全国・県)を上回るようにする。	2学期の全学年の単元テストの結果の平均は、国語86.3点、算数80.8点で、ほぼ期待通りであったが、思考・判断・表現の領域では、個人差が見られた。「鍛える授業」の推進が更に必要である。児童一人一人の理解や思考を十分に把握して、次の学年に向けた学びの見届けを確実にを行う。	3	3	3
	2	簡潔で分かりやすい指示・発問に努め、80%以上の児童が集中して話を聴くことができるようにする。	91%の児童ができると回答した。特に、国語の授業を中心に、簡潔で分かりやすい指示や発問を工夫したことで、児童の集中力が増し、聴く意欲や力を高めたと考えられる。継続して行い、学力の定着に結びつけるようにする。	3	3	3
	3	一人一人がしっかりと思考する場を工夫するとともに、対話型の発表を通してみんなで考えをまとめていくことができるようにする。	93%の児童ができると回答した。発表する機会を確保することやグループでの発表の場を設定することで、進んで発表することができた。話し合いで、考えをまとめていくことは十分ではない。みんなで考えをまとめていく方法を具体的に指導していく必要がある。	3	3	3
	4	読書指導や読み聞かせの充実を通して、1週間に1冊以上借りる等の個人読書目標をもたせ、85%以上の児童が目標を達成できるようにする。	個人読書目標を達成している児童は93%である。読書や読み聞かせの時間を確保し、図書活動推進員を中心にした本に親しみやすい環境づくりを行い、週末読書に取り組みさせたことで、読書意欲を更に高めた。	3	2	3
生徒指導	1	あいさつや返事、礼儀の指導を徹底し、学校や家庭、地域でのあいさつやお礼など85%以上の児童が達成できるようにする。	93%の児童ができると回答した。学級での指導に加え、児童会を中心に行ったあいさつ運動が、児童の意識をより高めた。個人差も見られるので、場に応じたあいさつ、一人でもできるあいさつについて継続して指導する。	3	3	3
	2	思いやりのある行動や丁寧でやさしい言葉遣いを85%以上の児童ができるようにする。	89%の児童ができると回答した。学校生活の中でも上級生が下級生を思いやる言動や困っている友達を気遣う場面が多く見られた。遊びや放課後等では、言葉遣いが荒くなる場面もあるので人権意識や実践力が高まるように、その場その場での指導を継続する。	3	3	3
	3	ろうか歩行や室内での過ごし方など、考えて判断・行動し、80%以上の児童がけじめのある行動がとれるようにする。	89%の児童がけじめのある行動がとれていると回答した。教職員の評価は、50%で、意識の差が見られた。学校での無言廊下歩行、清掃、室内での過ごし方等、場に応じた静と動のけじめのある行動を賞賛し行動が変容するよう継続して指導する。	3	3	3
	4	学校での朝のボランティア活動や地域におけるボランティア活動や行事等に90%以上の児童が進んで参加できるようにする。	97%の児童が進んで参加していると回答した。学校での朝のボランティア活動に意欲的に参加している。上級生から下級生への声かけや児童の教え合いが多く見られ、リーダー性や思いやりの心が育ってきている。	3	3	3
体力向上、安全指導	1	体育指導法の充実を図り、90%以上の児童が全力で運動に取り組むとともに、友達と協力しながら競技することができるようにし、「県体力テスト」でA及びB判定の児童が70%以上になるようにする。	97%の児童が全力で運動に取り組んでいると回答した。運動量を確保し、記録カードを工夫することで、全力で運動に取り組む児童、協力や競争する児童が多く見られた。個人差に応じた指導を更に工夫しながら柔軟性を高める運動を継続して取り組ませる。	3	4	4
	2	「学校で天気の良い日には、昼休みに友達と外遊びをする」と答える児童が90%以上になるようにする。	93%の児童が外遊びをしていると回答した。全校や各学級において、みんなで遊ぶ日を設定し、外で遊ぶことを促したり学級担任が一緒に遊んだりすることで、進んで体を動かしたり、集団遊びの楽しさを味わったりした。	4	4	4
	3	立腰指導を徹底し、「姿勢に気を付けて話を聴いている」と回答する児童が80%以上を達成できるようにする。	65%の児童が姿勢に気を付けて話を聴いていると回答した。効果的な指導が十分にできなかった。授業開始と終わりの立腰指導を徹底する。さらに、立腰の必要性が気付かせる指導の工夫や意図的・計画的な個別指導を継続する。	3	3	3
	4	家庭と連携して生活リズムの改善を図り、「8時間以上の睡眠をとり毎朝朝食を食べている」と解答する児童が100%になるようにする。	100%の児童ができていると回答した。月1回のすこやか週間や取組や学級通信、保健だよりでの啓発が、生活リズムの改善につながった。次年度は、学校での情報モラル指導を計画的に行うとともに家庭への啓発を行うことで、更なる生活リズムの改善を図る。	3	4	4
家庭・地域との連携	1	保育園への訪問や保育園の小学校体験などの相互の交流の充実を図り、互いのよさを味わわせるとともに連携した教育を推進する。	体験交流は実施できなかったが、小学校からおもちゃやおもちゃの遊び方の動画、保育園からの感想動画の送付を通してつながりをはもつことができた。次年度も交流の仕方の工夫を行い、互いのよさを味わわせる。	3		3
	2	町教職員研修会や町教育の日、集合学習等への積極的な取組を通して、小・小中の連携した教育の充実を図る。	町教職員研修会での授業提案と研究協議の充実をめざして、主題研究に熱心に取り組んだ。本町児童生徒の課題解決につながる授業と活発な研究協議が見られた。次年度は、ICTを活用した小・小中の連携を模索する。	3		3
	3	家庭や地域社会の教育力の積極的な活用を図り、家庭・地域との連携を深める。	各教科等では、児童が地域に出かけたり講師を招聘したりして地域を知り、ふるさとを愛する心情を育むことができた。全校児童から地域の方への年賀状送付で、つながりを継続することができた。次年度も地域とつながる手立てを工夫していく。	3	3	3